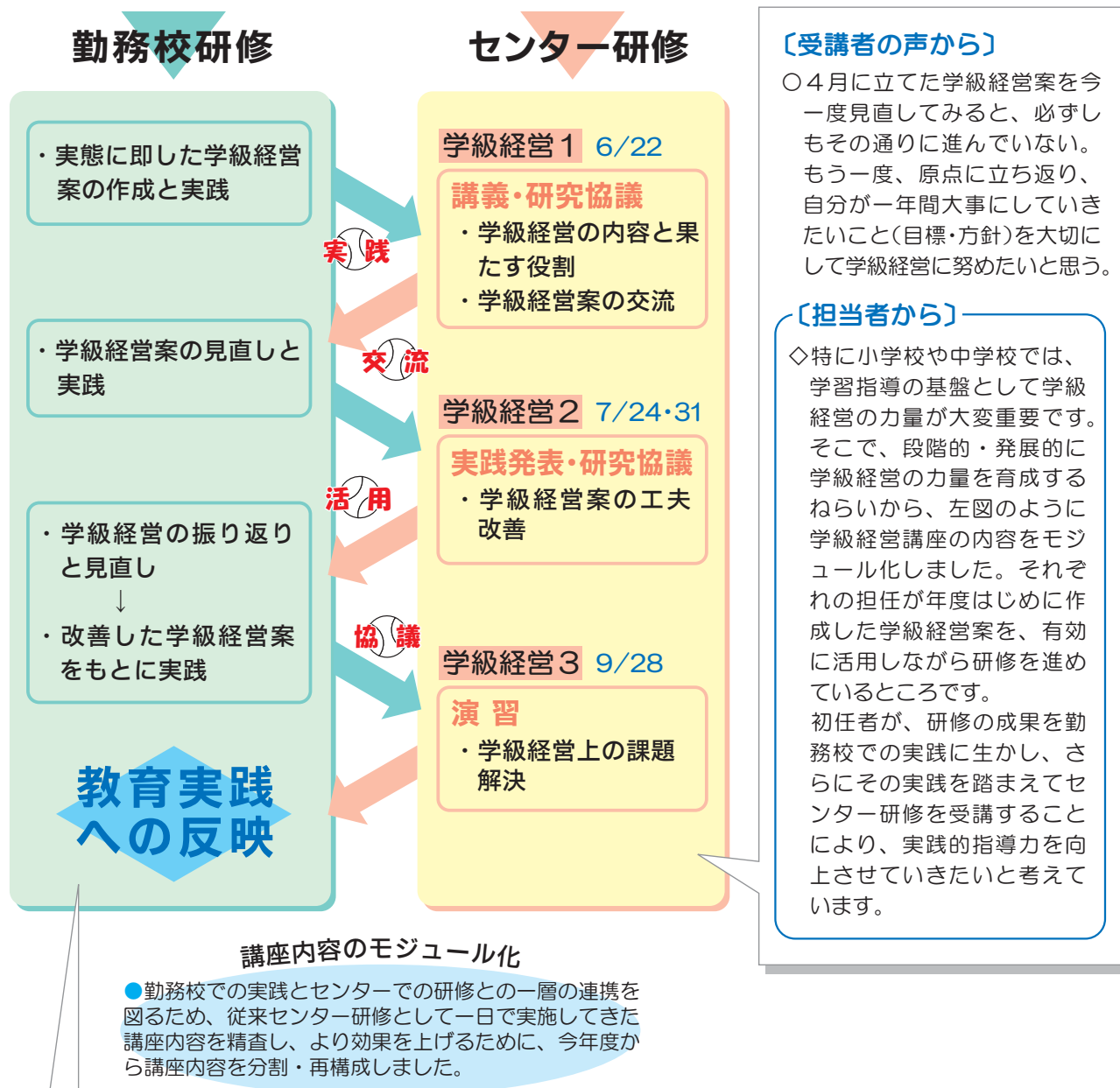


□ 勤務校での実践と講座内容のモジュール化で相乗効果を

— 一層の連携による実践的指導力の育成を目指して —

「学級経営講座」のモデル例



〔受講者の声から〕

○4月に立てた学級経営案を今一度見直してみると、必ずしもその通りに進んでいない。もう一度、原点に立ち返り、自分が一年間大事にしていきたいこと(目標・方針)を大切に学級経営に努めたいと思う。

〔担当者から〕

◇特に小学校や中学校では、学習指導の基盤として学級経営の力量が大変重要です。そこで、段階的・発展的に学級経営の力量を育成するねらいから、左図のように学級経営講座の内容をモジュール化しました。それぞれの担当が年度はじめに作成した学級経営案を、有効に活用しながら研修を進めているところです。初任者が、研修の成果を勤務校での実践に生かし、さらにその実践を踏まえてセンター研修を受講することにより、実践的指導力を向上させていきたいと考えています。

〔勤務校の校長の声から〕

○研究協議会に参加して、今年度からセンターが初任者研修の改善に向けて重点的に取り組んでいる様子がよく分かった。以前の初任者研修に比較して、今まで以上に勤務校研修が大変重要になり、かつ内容的な面でも校内でもやりやすくなったように感じている。初任者の健康に留意しながら研修期間が終われるように気を配っていきたい。

〔指導教員の声から〕

◇今年度は、講座内容のモジュール化、担任制など今までの研修と違って新しい形で研修を進められており、以前に比べてスリムで充実した形になっていると感じました。特にモジュール化に関しては、大変興味があり一回目の講義のあとでは私が担当する初任者の先生に聞きながら、自分の新規採用の頃を思い浮かべながら話を聞くことができとても参考になりました。とにかく初任者にとって意味のある研修になることが大切です。自分自身や先輩教職員が勤務校でその一助になれば幸いです。